

「日韓共通の家」を

日本と韓国の間で「日韓フォーラム」という有識者の会合がある。た安堵感を、会議に参加している毎年1回相互に開催しているが、今年には8月20日から3日間、ホテル・ニューオータニで開催された。これは会議の場でも申し上げ日韓首脳間で創設されてから32年を考えるにあたっではいくつもの有益な議論と提言を重ねてきた。私たちが05年に外務省を退官して以降、日韓フォーラムのメンバーだ。現在、私自身の「オール・ヒストリー」の推敲作業を進めている最中だが、当事者であった外交の場面などについて、日韓関係に最も強い覚悟がある。担当課長や担当局長として、韓国が軍りや、ある意味の甘えはいまだに事独裁政権の時代から民主化されて今日に至るまで、とても苦勞しなという苦い思い出とともに、よ

うやくこまで関係が成熟してき間中かみしめていた。来年は日韓正常化60周年の記念すべき年にた。これは会議の場でも申し上げ日韓首脳間で創設されてから32年を考えるにあたっではいくつもの有益な議論と提言を重ねてきた。私たちが05年に外務省を退官して以降、日韓フォーラムのメンバーだ。現在、私自身の「オール・ヒストリー」の推敲作業を進めている最中だが、当事者であった外交の場面などについて、日韓関係に最も強い覚悟がある。担当課長や担当局長として、韓国が軍りや、ある意味の甘えはいまだに事独裁政権の時代から民主化されて今日に至るまで、とても苦勞しなという苦い思い出とともに、よ

時評 ウェーブ



田中 均

たなか・ひし、99年大法官。外務省経済官、アジア大洋州局長、外務省参事を経て、(株)日本経済戦略研究所理事長を経て特別顧問。(公財)日本国際交流センターシニアフェロー。

民主主義国同士の健全な隣国関係 国民の選択であり、他国の介入すに昇華していくのだろうか、それにつけても両国はもう甘えの許されない対等の関係にあるという認識を新たにしていくなさう。

第一に、日韓関係の難しさは両国の政治にある。軍事独裁体制から民主主義を勝ち取ったという自負の強い進歩政党は軍事政権を支持した米国の日本に対して批判は強い。そのような反日意識を政治に利用しようという傾向は強く、日本でも保守ナショナリスト勢力の嫌韓感情は強い。民主主義体制の下でどの政党が政権をとるかは

は地域にとっても重要だ。第三に、ビジョンだ。過去60年を回顧すると同時に、もっと重要

であるのは、日韓がどういった隣国関係を構築したいのかというビジョンである。世界のどこでも隣国関係は難しい。欧州では独仏関係悪化が一度の世界大戦の引き金になった。米加関係や米墨関係も例外ではない。今日独仏関係は良好であるのはEUという共通の家が構築されたからだ。日韓関係についても「共通の家」を作るときではないか。これまでも金浦・羽田のシャトル便や日韓の間の障壁を下げる試みはされてきたが、日韓が経済的にも同レベルに到達したという認識の下に、両国間に存在する壁を取り除く作業を始めるべきではないか。EUにない二国間で相互の貿易・投資を自由化し、人の流れや留学生交流を活性化することを制度化していくべきではないか。「日韓共通の家」ができた時には、もう隣国関係が悪化する憂いを持つ必要はなくなるのだらう。